

外科

総合外科（下部消化管グループ）



診療科WEB



外来担当医表

TEL 022-717-7740(外来)

完全予約制

科長 大沼 忍

下部消化管グループは、小腸・大腸の良性・悪性疾患を診療しています。

悪性疾患の大腸癌に対する手術は、原則、腹腔鏡・ロボット手術で行います。直腸癌ではできるだけ自然肛門を残し人工肛門を避ける手術（括約筋間直腸切除術：ISR）を心がけています。また、進行直腸癌に対し、術前化学放射線療法後に手術を行うことで、機能温存と根治性の向上を目指しています。さらに、遠隔転移例、局所再発例には手術療法・放射線療法・化学療法を組み合わせ治療成績の向上に努めています。家族性大腸腺腫症、神経内分泌腫瘍（カルチノイド）、消化管間質性腫瘍（GIST）、悪性黒色種など稀腫瘍に対する手術治療にも対応しています。良性疾患では、潰瘍性大腸炎やクローン病などの炎症性腸疾患に力を入れているのも当科の特徴です。潰瘍性大腸炎では大腸を全摘して、自然排便が可能な回腸・肛門吻合術を標準としています。クローン病では病変部の狭窄が高度な場合は病変部の切除を行います。比較的軽度の場合は狭窄を解除する術式を組み合わせ、可能な限り腸管を温存し、短腸症候群の予防に努めています。

主な対象疾患

大腸癌（結腸癌・直腸癌）に対する腹腔鏡手術・ロボット手術／直腸癌に対する肛門機能温存手術／進行大腸癌・大腸癌再発に対する積極的切除、集学的治療／遺伝性大腸癌（家族性大腸腺腫症、リンチ症候群）に対する手術治療／神経内分泌腫瘍（カルチノイド）、消化管間質性腫瘍（GIST）、悪性黒色腫など稀少腫瘍に対する手術治療／炎症性腸疾患（クローン病、潰瘍性大腸炎）に対する腹腔鏡を中心とした手術治療／人工肛門（ストマ）ケア、短腸症候群の予防と管理中心静脈栄養カテーテル・ポート管理